

栃木市男女共同参画広報紙

平成27年3月
第5号

きららとちぎ



男女共同参画写真コンテスト 最優秀賞「○○ちゃん、これはね」 大塚紀子さん



男女共同参画

編集／きららとちぎ編集員
(栃木市男女共同参画地域推進員)
発行／栃木市生活環境部 人権・男女共同参画課

〒328-8686
栃木市万町9番25号
TEL 0282(21)2162
FAX 0282(21)2680



栃木市マスコットキャラクター「とちぎ」

共同参画フラッシュ



市民

地域で安心して暮らせる社会

平成26年7月12日(土)、栃木市厚生センターにおいて栃木市城内南自治会・栃木市男女共同参画地域推進員・市人権男女共同参画課による「ミニ市民のつどい」を開催しました。

まず初めに、「パールの会」によるウクレレ演奏で場を盛り上げ、次に「なぜ、今、男女共同参画社会を目指すのか?」と題して、推進指導員による講話、続いて男女共同参画自主グループ「蔵の町子ファミリー」による紙芝居、最後に話し合いと進め、「高齢化していく社会において、どのように生きていきたいか」ということについて活発な意見交換を行いました。



「なぜ、今、男女共同参画社会を目指すのか?」

栃木県がもし100人の村だったら

	2010年	2040年
総人口	100人	80人
0~14歳	14人	8人
15~64歳	64人	43人
65歳以上	22人	29人

2010年栃木県の人口約200万人

* 栃木県「新とちぎ元気プラン2011~2015」より

急激な人口減少と少子高齢化が予想されます

各分野の取り組み

教育関係者

互いの性と個性を大切に自分らしさの育成

- * 身体計測・内科検診の時は、互いの性差に配慮する
- * 生活班、給食などの班編成は、男女混合になるよう心がける
男女ともにお互いを気遣い、思いやり・優しさを育む
- * 生徒会・部活などのリーダーは男・女というより、人として選出する。これは社会人になるためのステップとなる
- * 技術家庭科では、お互い協力して家庭生活を築いていくための在り方や技術を学ぶ
- * 体育では、女子もサッカーなどの球技を実施する





とちぎ市男女

市民が主役の街づくりのための 男女共同参画の推進に関する施策の実施

とちぎ市男女共生大学

毎年5～9月、男女共同参画に関する学習の場を8回開講しています。男女共同参画についての講話や落語、研修会参加者の発表としゃべり場、現地見学会、健康運動・・・など。

多方面から学べるような内容になっています。ここで学んだことを、家庭や地域そして職場でさらに活かしていきましょう。



市

仕事と生活の調和を目指した環境づくり

従業員1400名のうち9割が男性で、男女共同参画に積極的に取り組んでいる、栃木市大宮町にある自動車部品の開発及び製造会社をご紹介します。

社員の生活と仕事の両立を目指して

- *働きやすい環境整備…ワーク・ライフ・バランスの実現
- *フレックスタイム制の正しい理解と活用の促進
- *有給休暇の計画的取得による取得率の向上

人材の有効活用の促進

- *女性の能力の最大限発揮や仕事へのやりがいにつながるための「公募制度」や「自己申告制度」

セクハラ相談窓口の利用拡大

- *従来の相談窓口を非正規社員にも適用拡大
担当を男性から女性に変えての相談しやすい対応

産休と育児休業取得実績

- *産休・育休：2012年各1名 2013年各3名

ワーク・ライフ・バランス

仕事と家庭や地域活動などの生活の調和がとれていて、相互により環境を与えあうこと

フレックスタイム制

労働時間をあらかじめ定めておき、その枠内で始業及び終業の時刻を労働者が自主的に決定し、働く制度

セクハラ

セクシュアル・ハラスメントの略。性的嫌がらせ、職場などで行われる性的差別や言動

スプレッドをすすめる

事業者



とちぎ市

男女共同参画のつどい

平成26年6月28日(土)
栃木市市民会館

男女共同参画週間(6月23~29日)の協賛事業として、「誰もが生き生きと暮らし、豊かで活力ある男女共同参画社会の実現」を目指し実施しました。

第一部 標語・写真コンテスト表彰

優秀な標語と写真に、市長から表彰状が贈られました。

○標語 小学生の部

最優秀賞

せんたくを たたむ父の手

大きいな

大宮北小5年 大賀 愛那

優秀賞

おじいちゃん

「ふろ」めし「ねる」はやめにして

ぼくとやろうよ

「ゴミ出し」「お料理」「ふろそうじ」

栃木第四小5年 相川 祐輝

お母さん 一人でむりせず

みんなだね

栃木第五小5年 矢島 真叶

エプロンも スーツも似合う

父と母

大宮北小5年 轟 穂乃香

ふれあいバス 女の人も 運転手

千塚小5年 牛久 空未翔

日曜日 ぼくの出番だ 皿洗い

大平西小5年 鈴木 駆

○写真の部

最優秀賞

(表紙に記載)

「○○ちゃん、これはね」

大塚 紀子

優秀賞

「男勝り(おとこまさり)」



永喜多 重雄

「ぼくにも、できるよ!」



氏家 美穂

○標語 一般の部

最優秀賞

男ひとと女ひと 繋つなぐ絆は 思いやり

小林 泰之

優秀賞

男ひとと女ひと 個性こ性が拓ひらく

ときめく未来

出井 裕子

働はたらこう 育てよう

バランスよく いっしょに

松山 智恵

第二部 コンサート

演奏「トリオ・アルマニヤック」



バイオリン・ピアノの三人による童謡からクラシックまでの幅広い演奏を鑑賞した後、全員で「翼をください」他を歌い、楽しい時を過ごしました。

その中で、男女共同参画の視点に立った家庭の様子トークがとても心に残りました。

「日本女性会議(男女共同参画)2014札幌」に参加して

県次世代人材づくり事業 研修生

清水 美知子

平成26年10月17日(金)~19日(日)

今年、札幌大会で31回目を迎えた日本女性会議は『未来の景色は、わたしたちが変える。』のテーマを掲げ開催されました。

さまざまな世代や立場の人々が、新たな一歩を踏み出し、未来へつながる男女共同参画社会を創る強い思いを込めて、集い、学び合い、次の世代につながる新たな価値観を話し合い、全国へ発信しました。

交流会では、他県のたくさんの方々とお話をする機会が得られ、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

今回、日本女性会議に参加したことは、私にとって大変実り多く、今後の活動に活かしていきたいと思えます。



おおひら 男女共同参画のつどい

平成26年6月21日(土)
大平文化会館

講話

「大介護時代の到来」
その時あなたはどうしますか？」



有限会社
フエードイン代表
工藤 敬子

日本はこの三年間に六百万人以上が前期高齢者となり、その方々が十年後には後期高齢者となります。三人にひとりの高齢者、まさに大介護時代の到来です。

親はまだまだ元気だと思っていま
せんか。ある日突然介護が必要にな
った時、誰が介護？施設にはすぐ入
所できる？

介護を前向きにとらえるための 四つのポイント

- 1 事前準備と情報収集
- 2 親と(子と)向き合うコミュニケーション
ーションをとる
- 3 家族の協力と外部サービスと経
済的基盤を確保する
- 4 働き方そのものを見直す

限られた一部の介護・育児中の社
員のためでなく、男性を含めた全社
員の働き方の見直しこそ必要になる
でしょう。



しゃべり場



「おおひら男女共同参画をすすめる会」による朗読劇

「参加者の声」

◎ 皆さんも大変な思いで、介護され
ていることを知りました

◎ 男性で介護を経験されている方が
おり、大変さを共有できた

◎ 家族・地域とのコミュニケーション
ンが大切だと思いました

◎ 介護と仕事の両立は理想ですが家
庭と職場の理解が必要です

◎ 企業のトップや上司、同僚も含め
て、きちんと意識を持つことが休
暇取得につながると思う

《相談は、地域包括支援センターへ》

男女共同参画を考える とちぎ県民のつどい

平成26年6月29日(日)
パルティとちぎ男女共同参画センター

午前の部では、男女共同参画地域
推進グループや団体等の発表があり
ました。栃木市代表として、「おお
ひら男女共同参画をすすめる会」が
朗読劇「どうする？我が家の介護」
を熱演しました。

午後の部では、「災害と男女共同
参画」3・11に学ぶ」と題して、
前千葉県知事、男女共同参画と災害
・復興ネットワーク代表の堂本暁子
さんの講演がありました。

災害に強い社会にするために女性
の力を活かすことや、災害時の備え
として妊産婦・高齢者・障害者のニ
ーズを把握しておくこと、誰にとっ
ても住みやす
い社会・心か
よい生きやす
い地域社会に
変えていくに
は女性の参画
が大切である
ことを学びま
した。



男女共同参画推進フォーラム

平成26年8月29日(金)～31日(日)
独立行政法人国立女性教育会館

「男女共同参画推進フォーラム」ひ
とりひとりの活躍が社会を創る」
として開催されました。

二日目には「女性の活躍促進と社
会の活性化」と題して、厚生労働事
務次官の村木厚子さんの特別講演が
ありました。

政府として、女性が働き続けられ
るようにするための取組が必要で、
女性の活躍推進・仕事と家庭の両立
支援に係る施策の概要などの説明が
ありました。女性の活躍を応援して
いくと共に、「女性が輝く社会」を
創っていきましょう。

お知らせ (予定)

◎ 栃木市男女共同参画宣言都市記念事業
平成27年度、栃木市は男女共同参画
都市宣言をし、市民と行政が一体とな
った男女共同参画社会づくりに取り組
んで参ります。

詳細につきましては、市広報紙等で
お知らせします。

◎ おおひら男女共同参画のつどい

平成27年6月21日(日)大平文化会館
テーマ「ワーク・ライフ・ケア・バランス」
(介護に関すること)

まらまら と 輝いてる男女

栃木地域

女性の家づくり

株式会社 エレフオン

佐山 華奈子



主婦の感覚、女性の感性を入れた家づくりがしてみたいとの思いで、「佐山華奈子のデザインハウス エレフオン」を立ち上げました。

発足当初はまだ簡単に女性を受け入れる業界ではありませんでしたが、時代の変化につれて何の違和感もなく多くの女性が活躍できる職種へと変化して参りました。

主婦経験を活かし、家族の思いを「かたち」にする。家の構造は言うまでもなく、生活動線・温熱・空気環境、十人十色のインテリア。

お客様にとってのオンリーワンの家づくりを心がけております。



大平地域

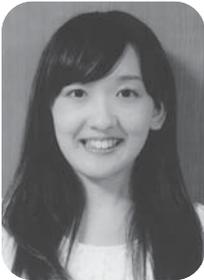
子どもたちの笑顔のために

小林 桃子

子どもの頃の私は学校が大好きで、学校は「誰にとっても楽しい所」「誰もが好きな空間」と当り前のようについていました。

高校生になり、それが当り前のことではなく、友人や先生の支えがあったからこそとわかりました。男も女もケガや病気の時互いに支えあい励ましあうことが大切で、皆が楽しく幸せに過ごせるような手伝いがしたいと思い、養護教諭を目指しました。

そして念願の養護教諭となり二年が経ち、まだまだ半人前ですが、毎日たくさんのお仕事を教わりながら仕事をしています。子どもにとっては経験年数は関係なく、私を頼ってくれます。そんな子どもたちに応えられるように、たくさん勉強し、経験を積み、頼られる養護教諭になりたいと思います。



藤岡地域

自己に厳しく他人に優しくをモットーに

全関東空手道連盟 雄飛會

代表理事 佐山 和章



25年前、
極真空手に
入門し師範
代を務め、
10年前に

「フルコンタクトカラテ道場」を藤岡町へ開設した。

体の弱かった私は、心身を鍛え強くなりたいと願って入門した。

現在は3才から中学生まで、男女30名が道場で週2日の厳しい稽古と、自宅の練習で頑張っている。

先日、埼玉県で開催された全国大会では1年生と6年生の選手が優勝という嬉しい結果もあった。

この会では、強さのみを追求するのではなく、自己に堅忍し鍛錬することで人の痛み、苦しみのわかる人間づくりを目指してきた。

精神的な成長を第一に、思いやりの心、礼儀、挨拶のできる青少年教育を大切に指導している。

この道場から、プロの格闘家や教育者として活躍している人などもあり、今後この精神を伝えていきたいと励んでいる。

都賀地域

地域と共に歩んで

本島 宏美

私は父の後を継ぎ、生まれ育った故郷の地で二代目の郵便局長として勤めています。

就任当初は、地元で仕事ができる喜び以上に、不安と緊張でいっぱいでした。男女共同参画社会ではありませんが、職場においては男性の局長の多い中で職を全うすることの難しさを感じています。

郵便局は省から庁、公社、株式会社と、時代と共に変化をしております。最近では、郵便局からお客様に依頼することが多く、社員共々、申し訳なく思っています。

しかし時代は変わっても地域のお客様が気軽に立ち寄り、笑顔で帰っていく憩いの場であり続けたいと思っています。

今後も地域の多くの方々に恩返しができるよう誠実に、温もりのある郵便局を目指して頑張っております。



西方地域

いつまでも元気に

西方町ソフトエアロビ愛好会

代表 古平 和夫



西方町のよさこいグループ「はねっこカッパ隊」で、

メンバーの大半が女性である中、男性2名の内の1人である古平さんは、以前スキューバダイビングのライセンスを取ったのを皮切りに、パラグライダーにも挑戦。現在は苺農家の仕事と両親の介護の合間に、週1回のカッパ隊とソフトエアロビ、毎日のウォーキングを続けていらっしやいます。

「これから益々高齢化が進むので、年を取っても、自分のことは自分で出来るようでいたいと思う。妻にもずっと元気でいてもらいたいのので、ソフトエアロビとウォーキングは、一緒にやっている」それで「これからは何かやりたいことが見つかったら自分の体力と家族に相談し、OKとなったらその時はやってみよう」と話す、笑顔が印象的な古平さんでした。(インタビュー 編集員)

岩舟地域

お互いに尊重し合って

野村 和男
野村 馨子

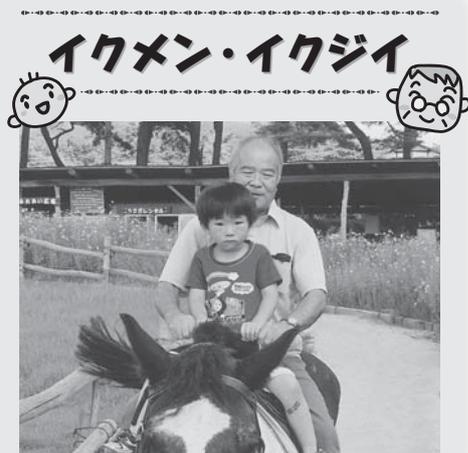
和男さんは現在、自営業の仕事の他に、岩舟レクリエーションクラブや栃木県キャンプ協会の会員であり、平成15年からは栃木警察署管内少年指導員として活動なさっています。

馨子さんは、「ガールスカウト栃木県第37団」団員長や岩舟町青少年育成町民会議事務局長を務めています。また、所属している「いわふねおはなしキャラバン」は今年で26年目を迎えたそうです。

「自分も家族も地域の人に支えられているのだから、地域で活動することは、その恩返し」と話す和男さんと、「夫の仕事の手伝いと子育てや介護をしながら活動を続けられたのは、夫が家事をいとわず非常に自立しているから」と話す馨子さん。



お互いの活動について「干渉はせず、必要な時はサポートし合っている」という仲の良いお二人でした。(インタビュー 編集員)



高校二年生の孫をはじめ、五人の孫の世話をされた大平町真弓の福富邦夫さん(75才)をご紹介します。

近所に住んでいる娘夫婦が共働きのため、お孫さんが1才の頃より入浴・食事・寝泊りなどの世話をし、毎日一緒に過ごしています。

畑仕事では、孫の好きな野菜も作り、その上、毎日保育園の送迎はもちろんのこと、公園での遊び、おもちゃの買物まで一緒に出かけます。

一番うれしいことは「孫と同じ気持ちになっ一緒に遊べること」とうれしそうに話して下さいました。(インタビュー 編集員)

男女が平等であるために

フェルディ・ジム・ライアン・ラバト・コラル

(小山市在住/フィリピン出身/
藤岡町小学校英語講師)



男女平等の差は国によって異なり、民族や伝統や法律によって違っているようです。

私はごく一般的なフィリピンの家庭に生まれ育ちました。父は中国系、母は生粋のフィリピン人です。両親ともカトリック教徒であるためと思います。が、家庭内ではそれぞれ異なった役割がありました。大きな決断をしたり、家族を養い守ることが男性の役割、そして家事をしたり、子どもの世話をすることが女性の役割です。

私たちの文化では、「男性は一家の大黒柱であり、女性は家庭を明るく照らす存在である」と言えます。

仕事においては、女性の大部分は補佐的な事務仕事ですが、産科医の多くは女性です。

男性は主要なオフィスワークをしたり、肉体労働をしています。

近年、物価の上昇によって、より多

くの女性が主婦業を担うためだけでなく生活費を得るために外に出て働きはじめました。男性と同様に家庭に貢献できると信じています。

女性の力が必要であると考えた民間団体やNGO団体の積極的な働きかけにより、雇用における男女差が極めて小さなものとなり、また、お互いを敬い合う意識も広がってきています。

今では女性の警察官・軍人・政治家などの数が増え、活躍しています。

日本に住んで十年。暮しの中で経験したり見たりしてきたことで感じたことは、まだ男女不平等が多く残っているということだと思います。

例えば、PTAの会合や子どもの遠足に参加すると、男性の保護者が自分一人だけということがたびたびあり、いつも不思議に思います。また、「料理を作ったり、家族と関わる時間をうまくとっているね。」と周囲の人からよく言われますが、私にとってこれは普通のことです。

男女平等の意識の広がりや社会の新しい流れは、その国の文化に変化を根付かせていくものだと思います。この問題はとても奥深くこれからも考えていかねばならないことだと思います。

DVに悩んでいるあなたへ 相談してください

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、夫婦や恋人など親密な関係にある男性から女性へ(女性から男性へ)の暴力をいいます。

DVで困った時は、一度、相談してみませんか。

栃木市役所 こども課	☎0282-21-2229
栃木警察署	☎0282-25-0110
とちぎ男女共同参画センター相談ルーム	☎028-665-8720
認定NPO法人 ウィメンズハウスとちぎ	☎028-621-9993
認定NPO法人 サバイバルネット・ライフ	☎0285-24-5192
女性の人権ホットライン(宇都宮地方法務局本局)	☎0570-070810
栃木県警察本部県民相談室	☎028-627-9110



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

(電話番号は、平成26年12月現在のものです。)

「配偶者暴力防止法」が改正され、生活の本拠を共にする交際相手からの暴力も法の適用対象になりました。

編集後記



岩舟町が合併し、栃木市も更に大きくなりました。私達も心新たに5回目の発行となります。今回、各方面からいただいた情報を基に、真の男女共同参画社会について理解を深めていただけますよう内容の充実を力を注ぎました。どうぞ一読下さい。

※氏名については、敬称略で表記しました。